

保護者向け道徳授業講座

道徳教育について家庭や地域社会との連携を図るための取組の1つとして、令和3年度から年に一度、「保護者向け道徳授業講座」を開催しています。

「先生にあてられて答えるのは、学生にもどったようでドキドキしました。」
(参加者の声)



講師は、元一宮市立浅井中学校長、現在岐阜聖徳学園大学准教授の山田貞二先生



令和4年度は、腎臓移植の提供を受けた経験をおもちの方を、オンラインでゲストティーチャーにお迎えしました。



令和5年度は、視覚に障害をもちながら教員として働く方をゲストティーチャーにお迎えしました。

令和3年度は、「バスとあかちゃん」という教材を使って、「思いやり」をテーマに話し合いました。

タブレットの代わりにスマホを使用。
「心の数直線」で気持ちを表します。



ペアトークで考えを伝え合います。

保護者が道徳科授業講座での話し合い活動を体験することで、本校の道徳教育の考え方、考え議論する道徳科のよさを知ってもらうことをねらいとしています。

子どもたちに対して先生方の授業のやり方や方針を知ることができました。「考える時間が大切」との言葉が印象に残りました。

昨年に続き今年も参加しました。講師の先生の授業の進め方、リズム、考えさせる手法に感心しました。

家に帰って子どもたちに、今日の授業のこと、先生のことを話しました。普段子どもたちとは、このような会話はないのでとても有意義な一日となりました。

来年もまた参加しようと思います。ありがとうございました。

授業の進め方の流れや、気持ちの考えさせ方がよく分かりました。タブレットを使った「心の数直線」を初めて知りました。

そして何より、杉浦さんの教師を選んだ生き方に感動しました。今に至るまでの心の動きを考えたあとで、ご本人から直接そのときのお話を聞いたことは、とても有意義でした。

2時間目は、1年西組の道徳を参観しました。やりたいことがやめられないときには、ガミガミ言うのではなく、「どんな気持ちで言っているのだと思う？」と聞いてみようと思いました。

授業の中で、自分の考え方、他の人の考え方、物事の捉え方の違いも見えたりして、とてもおもしろいなと思いました。

参加者の声

貴重なお話を聞く機会を設けてくださりありがとうございました。ただ一方的に話を聞くだけでなく、ゲストの方の気持ちを考え、他の参加者の考えを聞くことで、様々な面から「生き方」について深く考えることができました。

